

歴史が動いた、あの「白河口の戦い」……。



▲鶴ヶ城の籠城での新島八重 (同志社大学所蔵)

今、新島八重とともに 白河、全国のステージへ

2013年大河ドラマ「八重の桜」



来年のNHK大河ドラマは「八重の桜」。1月6日には、鈴木市長がNHK本社に出向き、大河ドラマに「戊辰戦争 白河口の戦い」を多く取り上げてほしいと依頼しました。今月号では、主人公・新島八重の人物像やドラマにおける白河口の戦いなどを紹介します。

主人公「新島八重」の人物像

黒船来航の8年前、弘化2年(1845)。新島八重は会津藩の砲術師範であった山本権八・

佐久夫妻の子として、会津若松市で生まれました。幼少期から裁縫よりも家芸の砲術に興味を示し、実兄の覚馬から洋式砲術の操作法を学びました。慶応4年(1868)、鳥羽・伏見の戦いで始まった戊辰戦争時には、会津・鶴ヶ城籠城戦で自らスペンサー銃を持って奮戦

大河ドラマ「八重の桜」と「戊辰戦争白河口の戦い」

ドラマ前半のヤマ場は、戊辰戦争で、会津藩が白河口の戦いから敗走して、会津・鶴ヶ城の籠城戦になり、男装した主人公・新島八重がスペンサー銃を持って奮戦するシーンです。会津藩は、維新の象徴として武力討幕を目指す新政府軍から幕府側の首謀者とされ、追討令を受けましたが、仙台藩・米沢藩などの東北諸藩は会津藩に同情的で、奥羽越列藩同盟軍を結成します。白河は、新政府軍が会津へ進攻するための要所であり、同盟軍はここを突破させるわけにはいきませんでした。白河口の戦いは、慶応4年(1868)、閏4月から7月(陽暦6月から9月)にかけて会津藩・仙台藩を中心とした奥羽越列藩同盟軍と、薩摩藩・長州藩を中心とした新政府軍が、7回にわたり大規模に繰り広げられた小峰城争奪戦です。しかし、新政府軍の巧みな戦術と新型洋銃の前に惨敗を喫した同盟軍は、7月14日の小峰城への攻撃を最後に白河周辺から撤退し、戦いの場は八重が活躍する会津・鶴ヶ城の籠城戦へ移ります。

多くの観光客を呼び込むチャンス

県では、福島県観光復興のため、「大河ドラマ「八重の桜」を核とした観光復興キャンペーン」を今年度の重点事業として取り組みます。本市では、県と共催で「ハンサムウーマン・新島八重の生きた時代展」と「白河口の戦いと新選組展」を9月14日から11月4日まで開催します。また、市への観光誘致を図るため、ガイドブック・ポスターの作成やイベント開催のほか、県や関係団体等と協力して、本市にある観光資源に光を当て、県内外へ魅力を発信していきます。



今、新島八重とともに白河、全国のステージへ



Interview No.2
白河飲食業組合長 田村光司さん

来たる観光客に備え、おもてなしの気持ちを磨いていきます

私たち飲食店にとって今回の大河ドラマの放映は、大きなチャンスだと思っています。各店が工夫して、観光客に喜んでもらえる新メニューや白河ならではの共通メニューを考えていきたいと思っています。また、観光客に史跡の案内ができるよう組合員の勉強会を開催して、おもてなしの気持ちを磨いていきたいと考えています。



Interview No.1
NHKチーフ・プロデューサー 内藤慎介さん

復興を目指す 東北・福島に声援を贈るドラマです

これまでも数多く語られてきた明治維新の物語ですが、敗れた側・会津の視点から、また、女性の視点から描かれるものはあまりありませんでした。今回の大河ドラマでは、新島八重の生涯を通じ、新たな幕末・明治像を描いていきます。

し、後に「幕末のジャンヌダルク」と呼ばれました。明治4年(1871)、兄・覚馬を頼って京都に移住、明治8年(1875)、新島襄と結婚して、同志社英学校を開校。翌年には洗礼を受け、襄とクリスチャンの結婚式を挙げました。女は男に従うことがあたり前とされた時代、豪放で勝手気ままに見える八重の生き方は、世間から「天下の悪妻」と言われま

明治23年(1890)、夫・襄が永眠、同年に日本赤十字社正社員になり、日清・日露戦争に篤志看護婦として参加しました。その功績により昭和3年(1928)、昭和天皇の即位大礼の際に銀杯を授かり、4年後に87歳の波乱に満ちた生涯を終えました。

白河歴史よりみち

稲荷山 (九番町)



稲荷山は、奥州街道から白河城下に入る関門にあたり、白河口の戦いにおいて同盟軍が最も重視した陣地です。会津藩を主力にした同盟軍が守っていましたが、薩摩藩などの新政府軍に立石山方面と桜町方面が破られると一気に劣勢となり陥落しました。稲荷山に応援に向かった副総督・横山主税は稲荷山の裏で戦死しています。

現在、稲荷山山頂付近は公園となり、会津藩家老で総督・西郷頼母の碑、ふもとはに会津藩戦死者の慰霊碑、その向かいには長州藩と大垣藩の戦死者の墓があります。

協本陣「柳屋旅館」跡 (本町)



白河口の戦いに参戦した斎藤一が率いる新選組隊士が宿営しました。また、明治14年の明治天皇東北巡幸の際、往路は休憩所、帰路は宿泊された場所でもあります。今もなお当時の蔵屋敷が現存しており、内部は違い棚、書院などを備えた床の間と座敷があり、玉座と呼ばれています。

また、中庭には軍人東郷平八郎直筆による「明治天皇行在所」碑と菊の御紋入りの灯籠があります。市では、新年度から保全整備に取り組んでいきます。